



18 沼津市手話言語条例推進協議会

沼津ろう乳幼児支援事業の 実施に向けた研修活動

計画達成度
100%

団体・法人データ
代表者:青木明美
構成人数 11名
活動歴 4年
主な活動地:沼津市内・オンライン
HP:なし
mail:なし

事業目的

R2,3年度の研修期間を経て、R4年度からの市の事業化を目指す

R2.4月より施行された「沼津市手話言語条例」の中の、市の施策「手話の獲得及び習得に関する支援並びに機会の拡大のための施策」を基にした事業。ろう乳幼児が手話を獲得できる場の提供。具体的には

①遊びをとおして自然に手話を獲得する場 ②大人のろう者との出会いの場 ③親子が手話で通じあえる場 ④ろう児の親同士の交流の場 を目的に展開する。

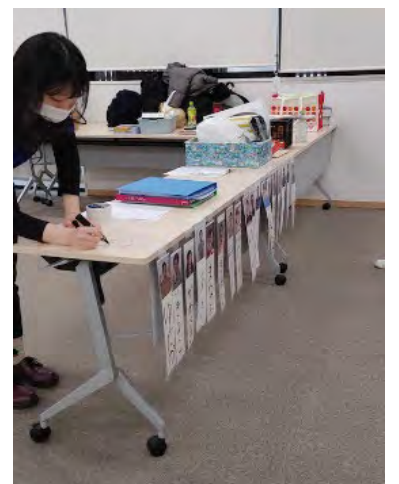
R3年度から、保健師・保育士を新たにメンバーに加え、実践面での強化を図る。絵本の選び方・伝え方、また並行して子育てに関する既存の団体とマッチングして、この事業の目的を周知し共有したいとの想いで情報を得る。

現状と目標

乳幼児の言葉や心理面での発達の専門家の確保

手話獲得支援に関する事例やスキルアップのために、先進事例である大阪府乳幼児手話獲得支援事業“こめっこ”とのネットワークを活かし、12月、メンバー6人が視察をし、ノウハウを学んだ。絵本や遊びの方法を学ぶだけでなく、乳幼児とのコミュニケーション方法、乳児であっても目を見て身振りて伝えると、身振りや表情で応えてくれる様子に感動し、このような経験を重ねることが他者とのつながりの第一歩になるとの想いを確固たるものにした。実践していきたい。

2月23日、R4年度から事業のアドバイザーをお願いしている臨床心理士で横浜国立大学の准教授に「コミュニケーションの発達支援」というテーマでオンライン講演会を開催した。理論付け出来たことは大きな収穫である。



活動と成果

研修の集大成として、11月27日にプレイベントを開催した。知人のろう者家族に参加協力をしたので、2時間の活動終了後、スタッフ・参加者交えて反省会を行い、貴重なアドバイスもあった。ろうの母の健聴の娘がろうの友だちが出来たと喜んでいて、と報告あり。そのようなつながりが大事だと改めて思う。

第二弾を2月26日に予定していたが、まん延防止等措置法の適用により断念せざるを得なかった。社会の現状は、ろう乳幼児が手話に出会う機会がなく、手話を獲得できないためにアイデンティティを持たずに成長するろう者の存在がある。ろう児にとっての母語である手話を獲得することにより思考力の発達にも良い影響が出ていることは実証されている。その信念を持ちつつ事業を進めていきたい。



振り返り課題

研修を事業に活かして

R4年度からの事業実施場所は保健センターが適当だと考える。乳幼児の6ヶ月・1歳検診やイベントなど、乳幼児が集まりやすいことと保健師さんに理解をして欲しいとの想いである。市職員の同行で保健センターで目的や日程を相談し、R4年度の事業6回の日程が決まった。

事業の啓蒙・啓発活動のため、ろう学校、子育て支援センターの会合で説明した。また保健師さんに集まってもらい、目的説明・協力をお願いしたあと、意見交換も出来た。社会へ広めるための第一歩になった。

取り組むべき課題は多いが、メンバーで切磋琢磨して今後も多くのことを学んで共生社会に近づいていけるよう研鑽を積む。

